



流行 日语趣文读译

张秀华 主编 孙莲贵 审校



南开大学出版社

流行日语趣文读译

张秀华	主编
孙莲贵	审校

南开大学出版社
天津

图书在版编目(CIP)数据

流行日语趣文读译/张秀华编译. —天津:南开大学出版社, 2001. 12

ISBN 7-310-01580-0

I. 流... II. 张... III. 日语-对照读物-日、汉
IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2001)第 041343 号

出版发行 南开大学出版社

地址:天津市南开区卫津路 94 号

邮编:300071 电话:(022)23508452

出版人 肖占鹏

承印 天津蓟县宏图印务有限公司印刷

经销 全国各地新华书店

版次 2001 年 12 月第 1 版

印次 2001 年 12 月第 1 次印刷

开本 880mm × 1230mm 1/32

印张 11.25

字数 320 千字

印数 1—3000

定价 17.00 元

流行日语趣文读译

附获世界翻译大赛最优秀奖作品

本书特色

- 八十八篇文章各具特色,从不同角度、不同层面去表现和发掘所学语言国家的民族性格,语言心理,社会文化,民俗民风。
- 多数文章内容风趣幽默,使人在会心的微笑中学习或阅读。
- 译文严格按照翻译准则译出,达到较高水平,因而,兼作在校大学生和自学者翻译习作的拓本。(如作品欣赏等栏目)
- 说明一些常用词的来源。
- 反映社会现状、现代人的苦恼、社会问题等。
- 〈换个角度看〉推翻了和否定了以往的价值观念。
- 全部采用日汉对照的形式,图文并茂。

由于编者水平所限,难免存在错误及疏漏之处,恳请各位同行以及热心的读者朋友批评指正。

1994/06

序

由张秀华副教授等编译的《流行日语趣文读译》一书几经波折、数历艰辛终于与读者见面了,她宛如一束素雅的小花,带着淡淡的清香悄然绽放在中国日语学习的百花园中。作为一名日语教育工作者,对她的问世感到十分喜悦,非常愿意把她介绍给更多的朋友。

翻开这本小书,令人感到一股清新的时代气息扑面而来。她语言平实而不失魅力;文风诙谐而自然天成,虽经数易其稿字斟句酌却毫无矫揉造作之处。细细读来,您于阅读、翻译的兴趣会在不知不觉中油然而生。

本书收录了88篇佳作,其中既有名家之作,也有出自普通日本人的偶感心得。文章风格迥异,各具特色,从不同的角度反映了日本的风情、民俗、社会现状、民族性格等。书中既有对日本文化深层次的剖析,读来令人深思回味;也有短小精悍的小品文,读来令人忍俊不禁。同时,为了取得情景交融的效果,书中还选配了几十帧别具特色的插图,真可谓图文并茂,相得益彰。

此外特别值得一提的是,南开大学著名教授孙莲贵先生亲自为本书担任审校,使本书的权威性、可读性大大提高;日语系同仁刘雨珍博士、刘肖云副教授、石云艳副教授以及华东师大的高宁教授等都欣然参与了译、校工作,为本书增色许多。另外,南开大学的硕士生、本科生中勤于练笔,热心于翻译实践的不少同学也借本书推出了他们的处女作,从中可以看到这些日语学界后来之人的文彩和潜力,令人欣慰。

一部凝聚着集体智慧和辛勤劳动的新作在新世纪的第一个春天带着对美好生活的祝福和期望向您走来。衷心希望您与她相识、相知,盼望她带给您些许快乐和慰藉。

王健宜

2001 初春于南开园

目 录

日本文化与异域文化的冲突

饮食文化冲突	汤薇薇译(3)
气味文化冲突	勾艳军译 刘雨珍校(7)
颜色文化冲突	勾艳军译 刘雨珍校(11)
洗浴文化冲突	汤薇薇译(15)
礼节文化冲突	汤薇薇译(19)
婚姻习俗的文化冲突	张秀华译(25)
育儿文化冲突	张秀华译(29)
馈赠文化冲突	张秀华译(33)
对异域文化的理解与国际婚姻	刘肖云译(37)
从“害羞”谈起	石云艳译(43)
外国人与手势	张秀华译(51)

岛国风情

赤足	王 艳译(59)
以心传心	张俊尧译(59)
人手不足	叶 琼译(61)
节分	熊诗颖译(63)
女孩节的民俗与传说	李 研译(65)
儿童节与黄金周	王 慧译(65)

回归故里的八月假日	王 慧译(67)
重体面的日本社会	孙 丽译(69)
日本人的道歉	刘海燕译(71)
鞠躬行礼	付志芳译(71)
饱食时代的日本人(一)、(二)	俞 捷译(73)
茶道的起源	程 静译(77)
“住”在日本	付志芳译(77)
飞机与日本航空	段娟娟译(79)
可嘉的爱车精神	张秀华译(81)
娱乐	肖 熠译(83)
相扑与横纲	邱 玲译(85)
多元化的宗教	许 昊译(87)
毕业典礼与开学典礼	李 研译(89)
就业	王远辉译(89)

作品欣赏

照片(川端康成)	刘雨珍译(95)
雨伞(川端康成)	刘雨珍译(99)
医院的常客(内藤国夫)	李晓光译 高 宁校(103)
我的好母亲(团鬼六)	李晓光译 高 宁校(107)
电影故事——寅次郎真実一路(电影简介) ..	李晓光译 高 宁校(111)
深入灾区 30 日——神戸的悲愴与感动	李晓光译 高 宁校(117)
桃子(田辺聖子)	刘肖云译(129)
幽灵(生島治郎)	张秀华译(139)

寓言·故事

狗求助于狼(評田讓治)	张秀华编译(151)
千头狼(評田讓治)	张秀华编译(157)

两老人与天狗(評田讓治)	张秀华编译(163)
天福地福(評田讓治)	张秀华编译(168)
小人鱼的红蜡烛(小川未明)	张秀华节译(178)
鸡蛋是白茄子(評田讓治)	张秀华译(181)

换个角度看

谦让是美德吗?(多湖輝)	张秀华译(185)
换个角度看(多湖輝)	张秀华译(187)
只说一句(多湖輝)	张秀华译(189)
父母的威严(多湖輝)	张秀华译(191)
“愚妻”、“犬子”(多湖輝)	张秀华译(193)
第六感(今西錦司)	张秀华译(195)
无所事事的母亲令人生厌	段娟娟译(199)
何其不孝!	叶 琼译(203)
奇迹连环链(宗田理)	张秀华译(207)

小幽默五十则

小幽默十则(一)	张秀华译(221)
小幽默十则(二)	张秀华译(227)
小幽默十则(三)	张秀华译(233)
小幽默十则(四)	张秀华译(239)
小幽默十则(五)	张秀华译(245)

趣文选译

六龄顽童	张秀华译(253)
不管吃几碗	张秀华译(253)
一点儿没变	张秀华译(255)

养狗	张秀华译(257)
科学家的笔记	张秀华译(257)
多谢您上次关照	张秀华译(259)
溜门贼	肖 熠译(259)
智斗色狼	邱 玲译(261)
哥伦布的鸡旦	张秀华译(261)
情人眼里出西施	张秀华译(263)
“猫溺”	张秀华译(263)
“以心传心”一词的由来	张秀华译(265)
也说“洗手不干”	张秀华译(265)
“怀石”料理	张秀华译(267)
盛宴	张秀华译(267)
一万零一百二十日元的债务	张秀华译(269)
代理人的故事	张秀华译(271)
咳嗽	张秀华译(275)
贫穷是美德	张秀华译(277)
“再干一杯”——特价招待券	张秀华译(279)
学电脑熟能生巧	刘肖云译(283)
殃及旁人的背囊	张秀华译(289)
我与新干线	张俊尧、王远辉译(293)
铅字内外	蒋海霞译(295)
男人的神韵	董胜开译(297)
寅次郎,请你别改变模样	张秀华译(299)
讨债人与啄木鸟	张秀华译(305)
机智与幽默	蒋海霞译(309)

附获世界翻译大赛最优秀作品

盈亏	汤薇薇译(317)
牛人	汤薇薇译(337)

日本文化与异域文化的冲突

飲食摩擦

外人はクリスマスケーキに驚く

クリスマスの晩、飲み屋のお座敷で会社員の一行がどんちゃん騒ぎのまっ最中。歌い出す者、踊る者、はては裸になる者も。片やその誘いを断ったドイツ人の上司。家では妻の手料理がお待ちかねのはず。ヨーロッパ人はクリスマスにデコレーション・ケーキは食べない。実はこれ、洋菓子メーカー不二家が発案したものを戦後口コミで広められた日本独特の風習なのだ。さて、ドイツ人上司が新宿駅で帰りの電車を待っていると、早くもホームで嘔吐する酔っぱらいがちらほら。ドイツならブタ箱に放り込まれかねない非常識な行為で、彼は思わず日本人の理性を疑った。たしかに日本ほど酔っぱらいに対して寛容な国はない。西欧や中国では、街頭や電車の中で嘔吐することなどは、まず考えられない。立ち小便もしかり。原則として飲酒を禁じられている回教圏ではなおさらだ。

しかし寛容なのには理由がある。そもそも日本では酒を飲めるのは「ハレの日」に限られていた。神に捧げた酒を、神人ともに分かち合い、歌いかつ踊るのだ。現在の宴会はその名残り。その座では傍若無人のふるまいが許されるという考えが根底にある。

もともと西洋人も、古くは神前に集まって酒を飲んだ。中世のミサでも、神に供えたブドウ酒をみんなで口にした。しかし神が絶対化され、近寄りがたい存在になると、酒は個人で静かに飲むものに変化する。またビールや葡萄酒なら昼間から水代わりとして飲む西欧では、度を越さない飲み方が自然に身につくらしい。一方、食事の方法に関しては、日本と西欧では共通項がある。個人ごとにおかずを盛り分ける点だ。中国や韓国へ行くと、大皿に盛った料理を各人がつつき合う。アフリカや中東などでも食器は共用が多い。また日本のようにハシを使うのは、東アジアの風習。ただし朝鮮半島では、おかずにはハシを使うが、飯はさじですくう。西欧では、ナイフ・フォーク・スプーンを使い分けて食べる。

饮食文化冲突

外国人惊讶于圣诞节蛋糕

圣诞节的晚上,在小酒馆的日式包间里,一群公司职员喝酒喧闹,玩得正欢。有人高歌,有人起舞,最后甚至有人脱了个精光。而他们的德国上司则拒绝了邀请。家里妻子亲手做的佳肴想来正望眼欲穿地等着他呢。欧洲人过圣诞节并不吃裱花蛋糕。其实,圣诞夜吃圣诞蛋糕是日本 的独特风俗,它由西式糕点生产名家“不二家”所创意、并在战前一传十、十传百地广泛流传开来。却说德国上司在新宿站等待着回家的列车,这时站台上已零零星星地有些醉鬼在呕吐。在德国,这种不讲公德的行为可是要被关进拘留所的。这位德国上司不由怀疑起日本人的理性了。的确,没有哪个国家像日本这样宽容醉鬼。无论是西欧、还是中国,在街头、电车中醉酒呕吐这种事情根本不能想象。随地小便亦然。而在原则上禁酒的回教圈内就更不必说了。

不过,宽容也有宽容的理由。原来在日本,饮酒仅限于隆重的节日,神人共享这进献给神的美酒,载歌载舞。今日的宴会便由此演变而来。因此从根本上来讲,人们认为酒宴上旁若无人的举动无伤大雅。

当然,西洋人古时也聚于神前饮酒。在中世纪的弥撒中,人们同饮供神的葡萄酒。但是随着神被绝对化,变得至高无上、难以接近之后,酒就变成了由个人静静享用之物。除此之外,在欧洲人们把啤酒、葡萄酒当作水的替代品,白天也常喝。因此,好像自然而然地形成了适度饮用的习惯。

另一方面,在用餐方式上,日本与西欧有着共同之处。这就是实行分餐制,饭菜每个人的要分开盛。在中国或韩国,菜都装在盘中,大家一起夹着吃。在非洲、中东等地,也多共用餐具。像日本一样用筷子吃饭是东亚地区的习俗。只不过在朝鲜半岛,吃菜用筷子,吃饭却用勺。在西欧,分别用刀、叉和调羹进食。

用手吃饭的有非洲、中东、印度和中南美的土著人等。伊斯兰人和印度教教徒认为左手不干净,必须要用右手抓食物。

手で食べるのは、アフリカ・中東・インド・中南米の原住民など。なお、イスラム圏やヒンドゥー圏では、左手を不浄として、必ず右手で食べものをつかむ。

食事のマナーでも、東洋人はメン類や熱い飲みものを、音を立てて口に入れる。しかし欧米ではこれは無作法となる。西欧では失礼とされる食事中的ゲップも、中国人は逆に食事に対する賞讃の合図とする。



一方、アメリカ人がよくやる食べ歩きはもってのほかである。

また各宗教や民族によって、食べたり飲んだりしてはいけないものが決められている。ヒンドゥー教では牛を聖なる動物として食べないが、イスラム人やユダヤ人は、豚は不浄としてタブーと見なす。詳しくは別表を参照してほしい。

また、日本なら日本酒や焼酎、中国なら紹興酒、イギリスならスコッチ・ウイスキーというように、各民族にはそれぞれ名産の酒がある。韓国ならマツカリ、アメリカならバーボン。オランダはイギリスと並ぶジンの産地だ。ロシアはウォッカ、メキシコはテキーラ、フランス・スペイン・イタリアなどではブドウ酒、ブランデーが広く親しまれる。

<食物>のタブー

キリスト教	金曜日の肉食
ユダヤ教	豚肉・馬肉・エビ・カニ
イスラム教	豚肉・アルコール
ヒンドゥー教	牛・アルコール
台湾(高砂族)	ウナギ



在餐桌礼节方面,东洋人吃面和喝热饮的时候嘴里都发出声音,但在欧美,这是不合礼仪的。吃饭时打饱嗝在西欧是不礼貌的,但在中国相反却表示对饭菜的赞赏。

而美国人常见的边走边吃的举动,在日本人看来却显得毫无教养。

另外,由于宗教与民族的关系,也决定了有些东西不能吃或是不能喝。印度教把牛视为圣物,所以不吃。而伊斯兰教与犹太教认为猪不干净,因此视为禁物。详细情况请参照附表。

另外,像日本有日本酒、烧酒、中国有绍兴酒,英国有苏格兰威士忌等等,各民族都有各民族的名酒。韩国有朝鲜浊酒,美国有波旁威士忌,荷兰与英国同是杜松子酒的产地。俄国人喜好伏特加酒,墨西哥人爱喝特奎拉酒,法国人、西班牙人、意大利人则青睐葡萄酒和白兰地。

< 食物的禁忌 >

基督教	礼拜五的肉食
犹太教	猪肉、马肉、虾、蟹
伊斯兰教	猪肉、酒类
印度教	牛肉、酒类
台湾(高山族)	鳗鱼

(汤薇薇 译)

匂い摩擦

醤油くさいのは日本人。焼肉くさいのはブラジル？

「コノ家、腐ッテルノ？ トテモ臭イ！」

大学の歌舞伎研究会で仲良くなった日本人ボーイフレンドのアパートを訪れたカナダの女子留学生が、部屋にはいったとたん鼻をつまんだ。思いがけぬ反応にボーイフレンドも啞然。ようやく原因は戸棚にしまってあった納豆と干ものにあると判明した。実はこれ、ボーイフレンドの大好物で、買い置きしておいたものだ。しかしカナダの女性には、まるで部屋全体が腐臭を発しているように感じられたのだ。

「こういう匂いって食欲をそそるのになあ。」

と嘆く彼に、彼女がとどめの一言。

「ソレニアナタ、醤油クサイ！」

事実、彼女が言うごとく、日本人には醤油の臭いがしみついていて、どうにも鼻につくという外国人が圧倒的に多い。この匂いが外国人には違和感があるのだ。逆に言えば、各民族にはそれぞれ匂いに対する固有の感覚があることになる。

たとえば西欧や中南米、アフリカなどでは刺激臭が好まれる。ブラジルの街では道行く人がみんな焼肉くさいと、日本人には感じられる。しかし彼ら中南米人は、匂いの個性を主張する傾向が強く、日本の女性が一樣に石けんくさい香りを漂わせていることが、奇異にすら写るようだ。

日本人は伝統的に刺激の少ない清潔・爽快な匂いを好む。たとえば柑橘系の匂いがそれである。自然と調和した匂いを大切にする気風は、移り香や花見の風俗を発達させた。菖蒲湯・柚子湯は、その匂いを体に移すためのもの。花見では桜や梅の木の下に座って、香りを体ごと味わう。西欧や中国では、花は上か横から見て楽しむもので、下から見上げる日本流の花見は理解しがたい。同じく残り香へ

气味文化冲突

带酱油气味的是日本人,带烤肉味道的是巴西人?

“这间屋子,发霉了吗?好臭啊!”

加拿大女留学生刚一走进在大学的歌舞伎研究会中结识的日本男友房间,就捏住了鼻子。对于女友意外的反应,男友不禁哑然。最后,终于发现罪魁祸首原来是储存在橱柜里的纳豆和干制食品,而这正是男友最爱吃的东西,买来后一直存放着。然而,这位加拿大女孩却感到仿佛整个房间都散发着一股腐臭味儿。

“这种味道才能激发食欲啊”,他叹道。对此,女友给予致命一击:

“而且你身上,还有一股酱油味儿!”

事实上,正如她所说,日本人身上都有股酱油味儿,绝大多数外国人都很讨厌,这种气味对他们来说真是难以接受。但反之又可以说,每个民族都有着自己对于不同气味的固有感觉。

例如在西欧、中南美及非洲等地,带有刺激性的气味很受青睐。日本人觉得,走在巴西大街上的行人身上,全都带着一股烤肉的味道。而对于这些注重气味个性的中南美人来说,日本女性身上全都散发着一股香皂味儿,简直有些不可思议。日本人传统上喜欢刺激性小的洁净、清爽的香味,如柑橘型香味。日本人崇尚与大自然相协调的香味,这种风气使得移香及赏花的风俗发达起来。浴池里放入菖蒲或柚子,就是为了使这些植物的香味浸入体内。赏花时,人们坐在樱花或梅花树下,全身心地沐浴着花香。而在西欧和中国,人们都是从上边或侧面赏花的,他们对日本人从下方仰望的赏花习惯感到难以理解。同样,对于余香的关注也是日本人所特有的。西方的香水,如果本人离开了,香味也就会跟着消失。但在《源氏物语》等文学作品中,男子的油性香料,即使本人离开了,也会留下一种夹杂着体味的妖冶味儿,女子就陶醉在这种渗透在房间四处的男人的余香里。

西欧人自古以来就钟情于玫瑰的花香,据说古罗马暴君尼禄曾将整个房间全都铺满了玫瑰花瓣。但是,就像红色玫瑰能激发人的热情

の関心も日本特有である。西洋の香水は、本人がいなくなると匂いが消える。しかし『源氏物語』などで男性が用いる油性薫料は、本人が去ってもその体臭と混ざり合ったなまめかしい匂いを残す。女性は部屋のあちこちに浸透した男性の残り香を楽しんだのだ。



西欧人は古来、バラの香りを好む。ローマのネロ皇帝は、部屋一面にバラの花びらを敷きつめたという。ただし赤いバラが情熱をかき立てるとされるように、花の香りが催淫作用と結びつけられることも多い。それは芳香のないツバキが、逆に純潔の象徴とされることからもうかがえる。

ところで最近の調査によれば、西欧人の間にも、好みの香りに微妙な差がある。都会的なパリの女性は、ペパーミント系の香水をふりかけて街を闊歩する、アメリカ女性は、バラの匂いのようにセクシーな香りを漂わせながら、職場で男と競う。明るいイタリア女性には、レモンの軽やかな匂いが似合う。東洋では、中国人はつんと鼻に突き刺さるような沈香木の香りを好む。一方、東南アジアでは、月下香の甘い香りを優しい恋人にたとえて楽しむ。

<各国女性の好みの香り>

日本人	上品な香り・甘い香り＝オレンジ
アメリカ人	セクシーな香り＝バラ
フランス人	シンプルな香り＝ペパーミント
イタリア人	軽やかな香り＝レモン